

2013年度在宅医療助成（後期）指定公募②

「在宅医療推進のため研究会、研修会への助成および学会等への共催」
完了報告書

第三回ナラティブ講演会

“生きる”を語る ～隔たりの向こうに見えるもの～

申請者 もりおかナラティブ勉強会 代表 松嶋 大

平成26年5月12日 提出

開催概要

1 開催日時

平成26年3月29日（土）午後1時から6時

2 開催場所

プラザおでってホール（盛岡市中ノ橋通一丁目1-10）

3 主催

もりおかなラティブ勉強会

4 共催

一般社団法人生きがいつくり研究所ほっとさぽーと

5 助成

公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団

6 参加者

115名

7 当日プログラム

12:30 開 場

13:00 第一部

基調講演 「ゆるす」ということ ～死生学と仏教から～

講 師：井手敏郎先生

14:30 休 憩

14:40 第二部

基調講演 医療と生老病死 ～ものがたりという視点～

講 師：佐藤伸彦先生

16:10 休憩

16:30 第三部

ちゃぶ台トーク（対談）

「自宅での平穏死こそが美しいのか!？」

登壇者：井手先生，佐藤伸彦先生，鈴木智之氏

18:00 終 了

講演会を終えて

今回、「生きる“を物語る～隔たりの向こうに見えるもの～」をテーマに、第三回ナラティブ講演会を開催した。「ナラティブ」「看取り」「死生学」「在宅医療」などについて深く考える場となった。

第一部は、井手敏郎先生から『「ゆるす」ということ』というタイトルで、「死生学」と「仏教」の両視点をもとにした「ゆるし」についてご講演いただいた。

第二部は、佐藤伸彦先生から、「医療と生老病死」というタイトルで、医療現場における終末期医療について事例を交えてお話しいただいた。佐藤先生は、「どこで」よりも「誰と」終末期を過ごすか、死ぬためではなく生ききるために「その人」をいかに支えるか、が大切であると話された。また、「専門性を捨てる専門性」の意義についても言及された。すなわち、終末期を迎えた人に対し、支援者が自らの専門性を捨て一人の人として接することが重要だという視点であり、とても心に響くフレーズだった。

第三部は、テーマは「自宅での平穏死こそが美しいのか!？」で、両先生ともりおかナラティブ勉強会（以下、当勉強会）副代表の鈴木の名による対談を行った。昨今、人の死について、平穏死や満足死などの様々な表現を聞くことが多くなった。そこで、本対談では、例えば、胃ろう栄養を受けずに自宅で静かに亡くなるなどの「ある一つの形式の死」がはたして美しいのか、ということについて徹底的に議論した。議論は最終的に、何がいい悪いということではないだろうということに落ち着いた。なお、佐藤先生から「いろいろあったけどそれなりの人生だった」という物語的理解をすると腑に落ちることが多いというコメントがあり、まさに腑に落ちた。

今回は、岩手県内のみならず他県からも多数の参加者があり、本講演会のテーマへの関心の深さがうかがわれた。参加者の皆さんが、人生の最期むかえようとする方の傍らで、両先生の言葉を後日思い出し、それぞれの場で善い実践をしていただけること願いたい。

本講演会は、多数の参加者とともに、日頃語りにくい「死」「看取り」などについて深く学ぶことができ、非常に意義のある機会となった。最後に、講演会開催に関して多大なるご支援をいただいた貴団体に心より感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団の助成による